在ベネズエラ日本国大使館

ベネズエラ情勢（内政・外交：令和２年１月）

１　内政

（１）　２０２０年新国会議長団選出を巡る動向（１月５日）

（ア）　１月５日午前１時頃，国会通常会期の開会式に出席予定の複数の野党国会議員が宿泊するホテル（カラカス市内）内において爆発物が発見されたとして，治安当局は野党国会議員等の宿泊者に対して部屋から出るよう求め，午前４時頃まで治安当局による捜査が実施された。右に対して，野党側はマドゥーロ体制側による脅迫行為であると非難。

（イ）　１月５日朝，ホセ・ブリト国会議員（当館注：最近の野党国会議員の汚職スキャンダルに関与していたとして，正義第一党から除籍処分を受けている。）は，新国会議長団として任命されるとして国会議員等のリストを読み上げた。

（ウ）　午前１０時２０分頃，グアイド暫定大統領を含む多数の野党国会議員が国会に到着するも，治安当局の厳重な警備により国会に入ることができずにいた。与党及び一部の野党国会議員出席の下，新議長団として以下の国会議員等による宣誓が実施された。（なお，同新国会議長団として宣誓した国会議員等は，ブリト国会議員が読み上げた新国会議長団メンバーと全く同じ。）議長：ルイス・パラ（正義第一党）（当館注：最近の野党国会議員のスキャンダルに関与していたとして，ブリト国会議員とともに正義第一党から除籍処分を受けている。），第１副議長：フランクリン・ドゥアルテ（キリスト教社会党），第２副議長：ホセ・グレゴリオ・ノリエガ（大衆意志党）（当館注：マドゥーロ体制側の買収を受け入れたとして大衆意志党から除籍処分を受けいている。），事務局長：ネガル・モラレス（民主行動党），事務次長：アレクシス・ビベネス（大衆意志党）の５名。

（エ）　パラ議員は，「国会議長」として与党系ＴＶ局のインタビューに応じて，「憲法と国会規則に基づいて新国会議長団が選出された。グアイド側野党国会議員は，グアイド国会議長の再選に必要な票を有していなかったので，審議に参加しなかった。」と述べるとともに，「今年，国会議員選挙が実施される。自分（「パラ議員」）は，彼ら（グアイド側）が，議席を求め，交渉を試みると確信している。全国選挙評議会が国会議員選挙の詳細を決定することを期待している。我々は，憲法に従わなければならない。」と述べた。

（オ）　５日夜，グアイド国会議長は，本年度通常国会開始にかかる特別審議を「エル・ナシオナル」紙本社ビル講堂において開催。本件特別審議の書記を務めるゴンサレス第二副議長が，議長の入場が不可能であったために，審議は開始されなかったこと，また，午前中，挙手による投票を行ったとする者達がいるが，議長団選出に際しては，議員一人一人がそれぞれ誰を支持するのか明示する必要があり，それ以外の投票行為は無効であること等を説明し，同副議長が全議員の名前を読み上げ，名前を呼ばれた各議員・代理議員（国外逃亡中，病欠等の理由による旨説明があった。）が唯一登録されているグアイド議長，グアニパ第一副議長（正義第一党），ベリスベティア第二副議長（少数野党 Proyecto Venezuela）の３名を支持する旨をそれぞれ表明。この結果，グアイド国会議長を筆頭とするリストが１００名の議員の支持を得たため，グアイド国会議長は，上記新国会議長団が選出された旨を宣言し，就任演説を行った。

（カ）　５日以降，同日発生した事案に対する懸念やグアイド国会議長への支持の再表明，民主主義への支持等のコミュニケまたはメッセージ（ツイッターの投稿を含む）を国際機関や各国が表明。（ＯＡＳ，リマグループ，ブラジル，エクアドル，パラグアイ，コロンビア，カナダ，米国，コスタリカ，ＥＵ，チリ，ポルトガル，グアテマラ，パナマ，アルゼンチン，メキシコ，ウルグアイ，ボリビア，ドイツ，フランス，英国，日本，

韓国）

（２） 政府，国民対話及びパラ「国会議長」間の動向

（ア） ６日，与党と少数野党による国民対話の会合が開催され，同会合において，ルイス・パラ議員を国会議長として承認。同会合には，デルシー・ロドリゲス副大統領他マドゥーロ政権関係者も同席。国民対話に参加しているハビエル・ベルトゥッチ（少数野党 Esperanza por el cambio 代表）は，国民対話により同日以降１４名の政治囚が解放されるだろうと発言。（実際に解放が確認された政治囚は８名（全員報道関係者）。）

（イ） １３日，最高裁憲法小法廷は，５日に設置されたパラ「国会議長」団（パラ議員，フランクリン・ドゥアルテ議員（「国会第１副議長」），ホセ・グレゴリオ・ノリエガ議員（「国会第２副議長」）に対し，同議長団の設置に関する文書を５日以内に提出するよう命じた。

（ウ） １５日，国民対話の会合が開催。トレアルバ与党国会議員は，パラ「国会議長」の下，国会が違憲状態を脱したと最高裁に認めてもらえるよう要請するつもりであると発言。

（３） ７日の国会審議を巡る動向

（ア） 午前７時過ぎ，国会議事堂入口及び周囲を国家警備軍等の治安当局が封鎖していることが確認された。

（イ） 午前１０時過ぎ，グアイド国会議長を含む野党国会議員団（注：報道によれば，８０名以上。但し，グアイド側，米国等は，グアイドを含め１００名としている。）が国会に到着するも，既に治安当局が国会入口を封鎖しており，グアイド国会議長等は治安当局に入場を認めるよう交渉を行った。その後，午前１０時４０分過ぎ，治安当局との押し合いの末，グアイド国会議長を含む野党国会議員が国会敷地内に入場。

（ウ） 入場後も騒動が収まらず，かつ国会議場内にも入場できないと判断し，一旦グアイド国会議長は同日の審議を開催しない旨発表するも，１０時５５分頃，グアイド国会議長は，国会議場内に入場することを決定し，治安当局隊員数名が抑えていた扉を押し開け，議場に入った。

（エ） 同日午前，国会議場において，与党国会議員及び離反野党国会議員らのグループだけで審議を行っていたパラ「国会議長」（与党側）は，午前１０時４５分頃審議を一旦中断し，議場を去った。これら国会議員グループは，国会敷地内に留まり，トレアルバ与党議員は，「ベネズエラ国民のため，権力を取り戻す」と発言していたが，グアイド国会議長が議場に入った際（午前１０時５５分頃），議場は既に空の状態だった。パラ「議長」率いる国会審議において，国会組織の整備・調整等を行うための委員会（国会議員１０名）の設置を決定。

（オ） 午前１１時頃，国会議事堂建物の電力が切断される中，国会の通常審議が開始され，グアイド国会議長，グアニパ国会第１副議長及び複数の野党国会議員が演説後，グアイド国会議長が暫定大統領として宣誓し，国会審議が終了。

（カ） 国会審議終了後，国家警備軍の兵士らが国会本部へと徒歩で戻っている最中のグアイド国会議長に対し，催涙弾を発砲（怪我等はなし，威嚇行為のみ）。

（キ） 同日，トレアルバ与党議員は，グアイドが率いる野党側による国家警備軍（ＧＮＢ）兵士４名に対する暴力を非難。一方，同日，国会議員も４名が審議を巡る騒動によって負傷。

（４） グアイド国会議長側国会の発表

（ア） ６日，グアイド国会議長を筆頭とする国会が，グアイド国会議長が１００票の賛成票をもって再選し，２０

２０年～２０２１年任期の議長団の選出されたこと等に関するコミュニケを発出。同コミュニケにおいて，既にグアイド国会議長及び国会に対する支持を表明した国際組織及び各国に対する謝意を表明するとともに，未だ表明していない国に対する支持・承認を要請。

（イ） ７日，国会ホームページにおいて，グアイド国会議長を含む新国会議長団に賛成票を投じた国会議員１００名のリストが公開された。

（ウ） ７日，グアイド国会議長・暫定大統領は，９日及び１０日に街頭集会，１１日にデモ，１４日に国会を目的地としたデモ行進を実施すると発表。１１日午後３時，グアイド国会議長・暫定大統領は，カラカス首都圏内モンタルバン地区において，街頭集会を実施し，数百人程度の支持者が参加。

（エ） １０日，グアイド国会議長・暫定大統領は，ノルウェー政府関係者のベネズエラ訪問に際し，オスロ・プロセスは既に終了し，いかなる会合にも参加しないと発表。

（５） パラ「国会議長」による国会職員の解任

（ア） １０日，パラ「国会議長」は，多数の国会本部職員を解任すると決定。右を受けて，国会職員は，労働にかかる権利擁護のため，１４日午前９時から，国会本部において会合を行うと発表。

（イ） 同日，国会法務部は，グアイド国会議長が唯一のかかる権力を有するとの理由から，パラ「議長」による国会職員の解任は無効であると判断。

（ウ） １４日，パラ「国会議長」によって不当に解任された国会職員らは，国会本部（国会議事堂とは異なる建物）において会合を実施する予定であったが，国家警察（PNB）のガードにより建物に入ることができなかった。

（６） マドゥーロ大統領の一般教書演説

（ア） １４日，マドゥーロ大統領は，カベージョ制憲議会議長，モレノ最高裁長官，アモロソ会計検査院長，ルセナ全国選挙評議会（ＣＮＥ）議長他同席の下，国会議事堂において実施された，制憲議会の審議において，一般教書演説を行った。議長席には，カベージョ制憲議会議長が着席し，パラ「国会議長」の姿はなかった。

（イ） 「マ」大統領は，演説において，２０２０年の国会議員選挙におけるより一層の信頼を得るため，国民対話に対し，ＥＵ，国連，アフリカ連合，ＣＥＬＡＣ（ラ米・カリブ共同体）を招待することを提案するも，ＯＡＳ及びアルマグロＯＡＳ事務総長の入国は認めないと発言。その他，政府の経済社会政策の成果，ペトロ（政府発行暗号通貨）の強化，２０２０年の基本方針等について言及。

（ウ） １４日，パラ「国会議長」は，自らのツイッターを通じ，マドゥーロ大統領が，自ら（パラ「議長」）が率いる国会において演説することを拒否したことに関し，拒絶する旨のコミュニケを発表。

（７） １５日の国会審議を巡る動き

（ア） １３日，グアイド国会議長・暫定大統領は，マドゥーロ大統領が一般教書演説を１４日に実施するとの発表後，同日に予定されていた国会審議を１５日に変更。同日，グアイド国会議長・暫定大統領は，国軍に対して１５日に開催される国会において，国会及び国会議員等に対して然るべき保護を提供するよう命じるメッセージを発表。

（イ） １４日，マドゥーロ大統領の一般教書演説の終了後，カベージョ制憲議会議長は，グアイド国会議長が実施を発表している国会審議と同日時である１５日午前１０時より，国会議事堂において，次の制憲議会を開催し，今後，制憲議会は毎日，特別審議を召集すると発言。

（ウ） １５日，早朝より国会周辺は治安当局による厳重な警備体制が敷かれていたが，グアイド国会議長・暫定大統領を含む野党国会議員は，国会の状況確認を目的に，グアニパ国会第１副議長，ベリスベティア同第２副議長，パルミエリ国会事務局長，ソロルサノ国会議員等からなるコミッションを創設し，同コミッションは車両で国会へ向かった。

（エ） 同車両は，国会近くにおいて，１００名以上の武装したコレクティーボによる投石等の襲撃を受けたため，現場を離れることを余儀なくされた。（コレクティーボの襲撃により，同車両の後部ガラスやサイドミラー等が破損した写真が報じられた。）グアイド国会議長は，国会議長が有する権限に基づき，国会外のエル・アティージョ市の劇場において審議を実施することを決定し，同会場で審議を実施。

（オ） コレクティーボは，国会周辺で取材をしていたメディアを襲撃し，襲撃を受けたメディアは機材を盗まれたり，暴行を受けた。また，コレクティーボは，同時間帯に教員のデモを取材していたメディアに対しても，汚物を投げたり，暴力を振るう等の行為をしたと報じられている。

（カ） １５日，カベージョ制憲議会議長は，パラ「国会議長」が審議を行うために国会への入場を求めれば許可する，グアイド率いる野党による暴力を防ぐため，民兵が国会周辺を守る必要があると発言。

（８） ホセ・ブリト議員と正義第一党の動き

（ア） １６日，ホセ・ブリト議員（汚職に関与したとして正義第一党から除籍処分を受けている）は，最高裁に対し，正義第一党から受けた除籍処分の無効化を求める訴えを提出し，また，正義第一党執行部の選挙を召集するよう要請。

（イ） 同日，正義第一党は，ツイッターを通じて，同裏切り者の国会議員はニコラス・マドゥーロに心を売ってしまった，等投稿。

（ウ） 同日，グアイド国会議長・暫定大統領は，「独裁者とその操り人形による攻撃は，ベネズエラの組織，民主的アクターへの攻撃である」と投稿。

（９） Telesur を巡る動き

（ア） １３日，デルシー・ロドリゲス副大統領は，ツイッターを通じ，グアイド国会議長・暫定大統領が Telesur（テレビ局）の再構築のための大統領委員会の創設を発表したことに関し，「グアイドは麻薬取引，パラミリタリー，強奪，犯罪組織のために Telesur を利用しようとしている」と発言。１３日，Telesur 側は，「Telesur は表現の自由の名の下，脅威を受けている。彼らは，テレビ局を乗っ取り，チャンネルを略取し，国民のためのコミュニケーション・プラットフォームを縮小しようとしている。」と非難。

（イ） １５日，グアイド国会議長・暫定大統領は，Telesur の再編にかかる大統領委員会の委員２名（いずれも報道関係者）を任命。

（ウ） １７日，委員の Leopordo Castillo は，Telesur の名称を変更し，本部をマイアミへ移転するための提案を行ったと発表。また，今後，基本的には米国及びラテンアメリカの民主主義国の資本によって運営されると説明。

（エ） １２日，グアイド国会議長・暫定大統領は，Telesur（ラ米地域テレビ局）が設立以来，同地域の不安定化に利用されてきたとして，Telesur の再構築のための大統領委員会の設立を発表。

（１０）グアイド国会議長側国会審議等

（ア） ２１日午前，グアニパ国会第１副議長は，当局の妨害により国会に入場することが出来なかったため，クンブレ・デ・クルモ地区（カラカス圏内）の広場で審議を行うと発表。

（イ） 同日，１９日からのグアイド暫定大統領の外遊に関し，憲法に則し，５日以上の同暫定大統領の国内不在を国会が許可。

（ウ） 同日，トマス・グアニパ（正義第一党）国会議員（国外避難中）を新駐コロンビア外交代表として任命することを全会一致で承認。

（エ） 同日，グアニパ国会第１副議長は，２８日，国会に向けた行進を召集。

（オ） 同日,イスマエル･レオン議員が行方不明となっていることを非難。担当する弁護士によるとレオン議員は，内務司法省諜報局（ＳＥＢＩＮ）本部に収容された。（翌２２日，ロドリゲス通信文化担当副大統領は，同議員は昨２０１９年１２月下旬に発生したボリバル州の国軍基地の襲撃事案に関与していたため拘束されたと説明。）２３日より自宅軟禁。

（カ） 全国選挙評議会（ＣＮＥ）委員選出委員会を検討する事前委員会委員長のメディーナ野党議員は，２７日～３１日，市民社会の代表の立候補者受付をベネズエラ中央大学において実施すると発表。

（キ） ２７日，国会は，全国選挙評議会（ＣＮＥ）の選出委員会の市民社会からの委員１０名を選出するため，立候補者登録をベネズエラ中央大学において開始（～１月３１日）。３１日，候補者登録期間を２月３日～７日まで延長して実施すると発表。

（ク） ２８日，チャカオ市内の広場において，グアイド国会議長側の国会議員（９２名）が審議。（注：同日，制憲議会が審議を召集していたため，野党国会議員が国会に入場できないことが予期されていた。）

（ケ） 同日，国会が，２０２０年における在外ベネズエラ資産の保護や回復等の司法活動のため，限度額２０００万米ドルを承認したと特別法務顧問庁コミュニケが報じた。

（１１）パラ「国会議長」率いる国会の発表，審議等

（ア） ９日，パラ「国会議長」は，我々は決して憲法から外れた方法を支持することはないだろうと発言。

（イ） １１日，パラ「国会議長」は，５日の国会議長選挙の参加国会議員リストが盗難に遭ったとして右を非難。同「議長」は，「投票は間違いなく行われ，当日は，民主行動党，新時代党，正義第一党の一部が出席しており，定足数を満たしていた」と述べた。

（ウ） ２０日，パラ「議長」は，野党に対して拠出されたＵＳＡＩＤの人道支援資金の使途を調査する委員会を国会内に立ち上げると発表。

（エ） ２１日，パラ「議長」率いる国会は，新たな全国選挙評議会（ＣＮＥ）を任命するために委員に対し迅速な行動を求めるための特別委員会を任命。

（オ） ２５日，モレノ最高裁長官は，（パラ「議長」側）国会が，選出に関する必要な情報及び書類等を提出したと発表。

（１２）治安当局によるグアイド暫定大統領事務所占拠

（ア） ２１日午後，内務司法省諜報局（ＳＥＢＩＮ）及び国家警察特殊部隊（ＦＡＥＳ）は，カラカス市内にあるグアイド暫定大統領事務所に押し入り，同事務所への関係者の立入りを禁止。

（イ） 同日，ロドリゲス通信文化担当副大統領は，グアイド暫定大統領事務所の占拠について，グアイド暫定大統領事務所が入っているビルの所有者が資金洗浄の疑いで捜査を受けている Noinual 社及び Juma 社と同じ

Volante Zuloaga 兄弟であり，同２社に大する捜査の一環で行われたものであり，暫定大統領事務所を対象とするものではない（但し，同事務所の立入りが禁止された理由は不明）旨説明。

（１３）グアイド暫定大統領に関するマドゥーロ政府関係者発言

（ア） ２３日，マドゥーロ大統領は，「（グアイドは）ベネズエラに対する陰謀を計画するためにコロンビアへ渡った。ベネズエラに対する介入を目的に会合するため，コロンビアから他国へと渡ったので，自分（マドゥーロ大統領）は，ベネズエラの司法がしかるべく行動することを期待する。」と発言。

（イ） ２３日，ロドリゲス通信文化担当副大統領は，テレビ番組を通じて，外国にあるベネズエラ資産のグアイドによる強奪に関する証拠を示した。同副大統領は，汚職によってグアイド国会議長及び周辺関係者が不当に潤っていると非難。

（ウ） ２４日，マドゥーロ大統領は，「米国において，グアイドが渡された何百万ドルもの資金をどのように盗んだのか調査されることを期待する」と発言。また，１９８９年の抵抗運動（※カラカス暴動）を記念し，２月２７日に与党側の行進を召集。

（１４）その他

（ア） ５日，グアイド国会議長は，自らのツイッターを通じ，所属していた大衆意志党に対して離党の意思を表明したと発表。６日，政府当局は，５日に野党国会議員が宿泊した Hotel Las Mercedes の５日間の営業停止（閉鎖）を決定。営業停止処分の理由は，５日に野党国会議員を宿泊させたためであると報じられる。

（イ） ６日，カベージョ制憲議会議長は，２０１９年にマドゥーロ大統領が国際通信大学を創設すると発表した際に，同制憲議会議長が同大学の場所の候補としてあげたエル・ナシオナル紙本部について再度言及し，２０２０年第一四半期中に法的措置等も含め必要な措置を取っていくと発言。

（ウ） ７日，ベネズエラ政府機関及びその関係者（大統領府，国軍，中銀，チョウリオ国軍最高司令部長官等）の複数のツイッターアカウントが一時凍結。８日，パラ「国会議長」のツイッターアカウントも一時凍結。

（エ） ７日，カベージョ制憲議会議長は，グアイド国会議長が選出された際，国会議員でない者が混在しており，１００票の投票を得て選出されたことを否定。

（オ） ８日，マドゥーロ大統領は，２月１５日，１６日に，カラカスを含む国内５つの都市において，２０２０年初めての軍事演習を行う予定であると発言。

（カ） １０日午前，カラカス首都圏各所において，数時間～半日の停電が発生。

（キ） １０日，サーブ検事総長は，昨年１２月２１日に発生したボリバル州小隊軍基地で武器等の強盗を行った１８名の刑事責任の追及を決定したと発表。（うち６名が軍人，１２名が一般市民。）

（ク） １１日，与党 PSUV 幹部のイストゥリス教育大臣等は，与党国会議員に対する支持等を目的に，支持者とバイク集団に対して国会を包囲するよう呼びかけた。

（ケ） １４日，午前９時から教育省前において教師及び教育関係者が抗議活動を実施。１６日，教師及び教育関係者は再び教育省前において抗議活動を実施。今後，全国教師デモを予定していると発表（日時・期間不明）。

（コ） １５日早朝，カラカス首都圏，アラグア州，ララ州等の一部地域において停電が発生。

（サ） １８～１９日，PSUV は，全国において，１５歳以上の PSUV 支持者登録を実施。PSUV は，同登録を通じて，新たに１３．４万人が加わったと発表。

（シ） ２４日，ノリエガ国会議員（汚職により大衆意志党から除籍された）は，最高裁に対し，大衆意志党による

同議員への除籍の決定を無効化するように要請。

（ス）　２７日，ロス・アンデス大学は，学長を含む学内執行部を選出する選挙を１月２９日に実施すると発表。

（セ）　２８日，カラカス市内のカンデラリア地区，サンベルナディーノ地区において夕方～夜間の停電が発生。

（ソ）　２８日，パラ「議長」率いる国会は，２０１９年にグアイド国会議長が行った行為（人道支援に関する汚職があったとするもの）に関し調査を行う委員会を任命。

（タ）　２９日，制憲議会審議において，民兵を国軍組織に編入させるための国軍基本法の改正が承認（注：官報未掲載）。

（チ）　２９日，マドゥーロ大統領は，新たなカラカス首都圏知事としてダリオ・ビバス（ＰＳＵＶ幹部）を任命。（注：その他州知事と異なり，２０１５年以降，選挙は行われず，大統領の任命により就任。）

（ツ）　２９日，与党ＰＳＵＶは，２月４日，チャベス前大統領が就任してから２１周年を記念し，行進すると発表。

（テ）　３１日，マドゥーロ大統領は，最高裁において実施された司法府の今年度の活動開始に伴う式典に出席し，デルシー・ロドリゲス副大統領とカベージョ制憲議会議長を中心に司法制度の改革を行うと発表。

２　外交

（１）　ホルヘ・ロドリゲス通信文化担当副大統領のＣＥＬＡＣ閣僚級会合参加

（ア）　８日，ホルヘ・ロドリゲス通信文化担当副大統領は，メキシコで開催されたＣＥＬＡＣ閣僚級会合に参加。

（イ）　同会合マージンにおいて，ロドリゲス副大統領は，ロドリゲス・キューバ外相，モンカダ・ニカラグア外相とそれぞれ会談。

（２）　アレアサ外相の中国・イラン訪問

（ア）　１５日，アレアサ外相は，王毅外交部長の招待に応じ，中国を公式訪問。１６日，王岐山（Wang Qishan）国家副主席，王毅国務委員兼外交部長，宋濤中央対外連絡部長とそれぞれ会談。

（イ）　会談において，アレアサ外相は，二国間関係及び協力協定，友好関係等に関する意見交換を実施し，中国は，改めてベネズエラの主権擁護及び尊厳に対する支持を表明。

（ウ）　１６日，アレアサ外相は，中国国際問題研究所（ｃｉｉｓ）において，「多国間主義の擁護におけるベネズエラの役割」と題した講演を実施。

（エ）　１９日，アレアサ外相は中国からイランへ渡航し，同日到着。

（オ）　２０日，アレアサ外相は，ザリーフ・イラン外相と会談し，協力・連帯関係を強化。

（カ）　２１日，アレアサ外相は，ローハニ・イラン大統領と会談。会談後に行われた記者会見において，アレアサ外相は，国連憲章の目的と原則を尊重し，国際地政学上必要な，新たなスキームを推進するとのコミットメントを再確認し，右に関し「ザリーフ外相と認識を共有し，また，ローハニ大統領とも共有した。」と述べた。

（キ）　記者会見において，アレアサ外相は，本年第一四半期中にテヘランにおいて第９回イラン・ベネズエラ・ハイレベル会合を実施し，エネルギー，食料等の分野の新たな協力協定の署名を予定していることを発表。

（３）　グアテマラのベネズエラとの国交断絶の発表

１６日，グアテマラ政府は，マドゥーロ政府との外交関係の完全な断絶を発表。右断絶は，在グアテマラ・ベネズエラ大使館の残り１名のベネズエラ外交官の退去及び同大使館の閉鎖を含むとした。

（４）　グアイド国会議長・暫定大統領の外遊

（ア）　１９日，グアイド国会議長・暫定大統領は，秘密裡に出国し，２０日，ボゴタで開催される第３回テロ対策半球閣僚級会合に参加するため，コロンビアを訪問。これまでグアイド国会議長・暫定大統領は，ヒズボラ等のテロ組織とマドゥーロ体制との繋がり，構成員の国内での活動について非難。

（イ）　１９日，ドゥケ・コロンビア大統領と，コロンビアへのベネズエラ移民問題他，両国間の様々なテーマについて議論。

（ウ）　２０日，コロンビアのボゴタで開催された第３回西半球テロ対策閣僚級会合に参加したグアイド国会議長・暫定大統領は，ポンペオ米国務長官と共同記者会見を実施し，ヒズボラ等のテロ組織とマドゥーロ体制の繋がりを非難し，また，ＥＬＮ構成員やＦＡＲＣ離反兵等にベネズエラが行っている支援についても言及。

（エ）　２１日，英国を訪問したグアイド暫定大統領は，ラーブ英国外相，ジョンソン英国首相とそれぞれ会談。

（オ）　２２日，ブリュッセルにおいて，グアイド暫定大統領は，ボレルＥＵ上級代表，欧州議会議員とそれぞれ会合。

（カ）　２３日，ダボスに移動したグアイド暫定大統領は，ダボス会議において演説を行い，国際社会の支持を求めた。同日，ダボス会議のマージンで，ブレア元英国首相，ウィルバー・ロス米商務長官，ルッテ・オランダ首相とそれぞれ会談。メルケル・ドイツ首相，イバンカ・トランプ大統領補佐官とそれぞれ立ち話。

（キ）　２４日，グアイド暫定大統領は，ダボスにおいて，クルツ・オーストリア首相，ミツォタキス・ギリシャ首相とそれぞれ会談。その後，フランスを訪問し，マクロン仏大統領と会談，仏上院を訪問。

（ク）　２５日，グアイド暫定大統領は，スペインを訪問し，ゴンサレス外相，元カラカス市長のアントニオ・レデスマ，ＰＰ党首他各政党関係者等とそれぞれ会合。マドリッドのプエルタ・デル・ソル広場における集会を実施。

（ケ）　２７日，グアイド暫定大統領は，トルドー首相と会談。マドゥーロ体制及び体制が引き起こす人道危機に対する闘いへのカナダの支持に謝意を表明。

（コ）　２８日，ボルヘス外交担当コミッショナーは，２月１日，グアイド暫定大統領がマイアミを訪問予定であると発表。

（５）　デルシー・ロドリゲス副大統領のスペイン入国等

（ア）　１９日深夜，デルシー・ロドリゲス副大統領がスペインに到着し，アバロス西運送大臣（ＰＳＯＥナンバー３）と秘密裡に会合したと各種メディアが報じた。マドリッドで開催された観光フェアに出席するためにスペインに向かったプラセンシア観光・貿易大臣と同じ飛行機に同乗しており，１９日深夜０時にバラハス飛行場に到着し，１４時間後，トルコへ向かったとされている。なお，ロドリゲス副大統領は，２０１８年６月２５日付のＥＵ制裁リストに含まれており，ＥＵへの渡航禁止及び資産凍結の対象となっている。

（イ）　２２日，プラセンシア観光・貿易大臣は，マドリッドで開催中の国際観光フェアに出席。

（ウ）　同日，デルシー・ロドリゲス副大統領は，ベネズエラ・トルコ外交関係７０周年の枠組みにおいて，トルコを訪問し，オクタイ・トルコ副大統領と会談。

（エ）　２７日，ボレルＥＵ上級代表は，スペイン政府がＥＵ制裁に違反したかどうかについて，分からないと述べた。制裁に違反したかどうか調査する責任を負うのは，各国の政府であると付言。

（６）　対コロンビア関係

（ア）　２７日，国家警察特殊部隊（ＦＡＥＳ）によってアイーダ・メルラノ元コロンビア国会議員が拘束された。警察発表によると，同人は，身分証を持たないコロンビア人（同元議員とともに警察により拘束）とともに違法にベネズエラへ入国した。拘束後は，内務司法省諜報局（ＳＥＢＩＮ）本部に身柄が送られた。（メルラノ元コロンビア国会議員は，２０１８年，不正な票の買収行為への関与により逮捕され，汚職及び違法武器の所持により懲役１５年を求刑されていたが，２０１９年１０月に逃亡していた人物。）

（イ）　２８日，ドゥケ・コロンビア大統領が，（マドゥーロ大統領ではなく，）グアイド暫定大統領に対し，メルラノ元国会議員の引渡しの要請を行う予定であると発表した。

（ウ）　同日，マドゥーロ大統領は，「本当にばかげた話である。ベネズエラには正統な機関が存在し，コロンビアよりもよく機能している。」と述べ，コロンビア側の決定を強く非難した。

（エ）　２９日，マドゥーロ大統領は，コロンビア政府と領事関係を再開する用意があると発言。

（オ）　同日，アレアサ外相は，「ドゥケがコロンビア大統領の任に就いてから，ベネズエラとの全ての関係が破壊された。コロンビアから，ベネズエラに対する武装攻撃が組織され，クーデター主義者や暗殺者を匿ってい

る。」とツイッターに投稿。

（カ） 同日，グアイド暫定大統領は，プレスリリースにおいて，コロンビアとの外交関係を再開するとのマドゥーロ体制の試みは（正常化を装おうとする）戦術であるとし，また，同暫定大統領は，ドゥケ・コロンビア大統領に対して領事サービスを回復するための支持を強調。

（7） その他

（ア） ２日，サーブ検事総長は，アウグスト・アラス検事総長（ブラジル）に対し，国軍基地での武器の強奪を行ったとされる５名の元国軍兵士の捜査の開始を通知するとともに,同５名の引き渡しを要請する書簡を発出したと発表。

（イ） ３日，当国外務省は，コミュニケを通じ，米国が同日早朝にイラク首都バグダッドの空港においてソレイマニ司令官を殺害したことに非難を表明。

（ウ） ６日，ボータッセ・スリナム大統領は，Ayerim Flores 新駐スリナム・ベネズエラ大使の信任状を受領。

（エ） ７日，アルゼンチンは，グアイド暫定大統領が任命したエリサ・トロッタ・ガムス「大使」の信任状受理を撤回。１３日，アルゼンチン政府は，ステラ・ルゴ（前観光大臣,「マ」大統領側）駐アルゼンチン・ベネズエラ大使を接受しないと発表。

（オ） 在ベネズエラ・イラン大使館で実施されたイラン革命ガード・コッヅ部隊司令官への追悼記帳の際，マドゥーロ大統領，アレアサ外相，カベージョ与党ＰＳＵＶ第一副党首及びＰＳＵＶ党員等が記帳。８日，マリア・コリナ・マチャード（Vente Venezuela 党コーディネーター）は，政権側の右行動は，マドゥーロ政権とヒズボラ等のテロ組織との関係を想起させるとし，同党は，ベネズエラ国内の国際テロ組織の存在を強調し，非難するコミュニケを発出。

（カ） ９日，マドゥーロ大統領は，Yasser Ali Ragab Ali 新駐ベネズエラ・エジプト大使及び Marichu B. Mauro フィリピン大使の信任状を受領。

（キ） ９日，アレアサ外相は，２０２０年の国会議員選挙に関し，米国が自由で公正な選挙実施のための各国の支持を要請したことを非難し，トランプ政権はベネズエラの正統な民主主義を攻撃しようとしていると発言。

（ク） １１日，アレアサ外相は，第７４回国連総会においてベネズエラが投票権を失ったことに関して，米国のベネズエラに対する経済封鎖により国際約束を遵守することができないとして,国連に対してベネズエラの投票権の保証を求めるメッセージをツイッターに投稿。

（ケ） １１日，マドゥーロ大統領は，コミュニケを通じて，カブース・オマーン国王の崩御に対して弔意を表明。

（コ） １３日，米国外国資産管理局（ＯＦＡＣ）は，パラ「国会議長」が率いる新国会議長団等を新たに制裁対象リストに追加。同日付外務省コミュニケは，パラ「国会議長」に対する制裁は，米国によるベネズエラ国会に対する介入であり，ベネズエラの主権的な機関に対する一方的かつ強制的な行為であると表明。

（サ） １６日，ブラジル政府は，民主的ではない体制が同共同体を主導していることを理由に，ＣＥＬＡＣ（ラ米・カリブ共同体）を脱退することを決定したと発表。

（シ） １８日，米ワシントンポスト紙のインタビューにおいて，マドゥーロ大統領は,「どれだけ米国が大きな国であろうと，尊重と対話，正しい情報の交換とコミュニケーションによって両者間における新たな関係を構築する安全保障を手に入れることができるだろう。」と述べ，米国との対話の可能性に言及。

（ス） １９日，外務省において，キューバ・ベネズエラ包括的協力協定に関する第２０回政府間委員会会合（本会議）が実施され，エル・アイサミ経済担当副大統領とカブリサス・キューバ副首相が出席。

（セ）　２２日～２４日，カラカスにおいて反帝国主義を謳う左派政党大会が開催された。

（ソ）　２７日，マドゥーロ大統領は，駐ベネズエラ・パレスチナ大使を叙勲。

（タ）　３１日，アレアサ外相は，当国を訪問中のロッカ国際赤十字・新月社連盟（IFRC）会長と，ベネズエラ国内で活動するにあたり，ベネズエラの法制度の枠組において規則を明確にする協力協定に署名。